

今回も、「未来のながさきの街づくり」を担う現場でガンバル若手のみなさんをご紹介します。



株式会社 堀内組
土木事業部 本山 直文 さん

地域住民が安心して生活できる
構造物建設に携わっていきたい

建設業の叔父から影響を受け建設業界へ。
「建設の基本は測量」との叔父からアドバイスで、グループ会社測量部門で3年間の勤務を経て、現在は土木事業部で現場代理人として勤務しています。

西九州自動車道伊万里松浦道路整備事業の道路改良工事を担当。「現場近隣に住宅もあるので、安全第一で作業を進めています」と本山さん。無事故で竣工させることが一番の課題だと語ります。

「土木工事は河川やダムなど様々な建設を体験できます。完成した時の安堵感と達成感は格別。先輩のアドバイスを吸収し、自分自身で決断できる技術者を目指しています。地域の人々が安全で安心して生活できる、なくてはならない構造物の建設に携わっていきたいです」。



休日は子どもたちと一緒に愛犬のラブラドルレトリバーの散歩へ



大石建設 株式会社
建築部 久松 靖子 さん

建設の現場は奥が深い仕事
日々勉強することが大切

大学時代に建築、建設関係の仕事に就きたいと希望。

ただし仕事内容は何も分からないままのスタートでした。イメージしていた建設現場の仕事は「男社会＝怖い」。実際に仕事を初めてみるとただの思い込みだったことが分かったそうです。仕事で難しいと思うところは「年上の人に作業をしてもらうことが多いこと。言葉などにも気を付け、情報共有のため、1対1ではなく、チームのメンバーで集合して話し合いながら作業を進めています」。

現在は長崎市の梁川交差点付近の建物リニューアル工事を担当。

仕事のやりがいを感じる時は「担当した現場が完成した時」。「現場ごとに臨機応変に対応できるよう、日々勉強しています」。



週末は友達とのドライブやショッピングなどを楽しんでいます